



祐介の目

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.27

毎月1日号に掲載

路が無いため、警察との折衝は当初より難航した。コース案は二転三転したが、粘り強い交渉の結果なんとか「輛(りょう)のしん」コース設定にて道路使用許可が下りた。

11月17日、輛・高島・水

第一回輛の浦駅伝大会

日本中が空前のマラソンブームであり、人気の大会は何倍もの抽選になるほどだ。福山も風光明媚な輛に向かって走るマラソン大会が実現できたら良いと思う。しかし、32年前の第一回福山マラソンにて、竹ヶ端から輛往復というコースで実施し、大渋滞を引き起こして苦情が殺到した苦い経験がある。

再度あのコースでマラソン大会を実施するにはどうしたら良いか有志で検討した。その際、まずはコースの車輛通行止めを必要としない「駅伝」を開催して下地作りをしてはどうかと提案させてもらった。駅伝は多くの選手が参加しても、同時に走る選手数はチームの数だけだからだ。

私は過去9回「グリーンライン駅伝」を開催してきた経験があったので、駅伝コースの設定と警察との折衝を担当したが、輛に抜ける県道22号線は迂回

吞学区区合同による輛の浦駅伝が開催された。各中継点の運営、車や選手の誘導は各学区体育会が中心となつて行い、役員はすべてボランティア、その数は200人にのぼった。地元から役員を出したことにより、駅伝やマラソンに対する理解も深まったことと思う。

32チーム、224人の選手は輛→田尻→水呑の全7区間16kmを力走し、ゴールの沼名前神社に次々と駆け込んだ。選手の多くはコースが素晴らしいと喜び、大会関係者に感謝の言葉を述べていた。閉会式では羽田市長より「将来は沼隈半島一周駅伝に発展させては」という提案も出て、大いに盛り上がりつつ閉幕した。

私も実際に走ってみて、やはり輛は歩いて走つてこそ、その良さが実感できる町と再確認した。橋が出来ない代わり県警トップの知事を口説いて「輛の浦マラソン」が開催できないものだろうか。全国からランナーが押し寄せること間違いない。